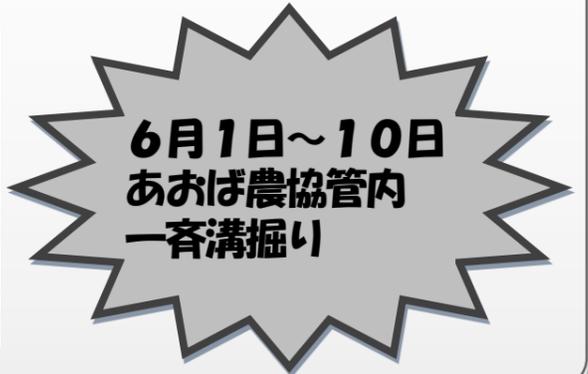
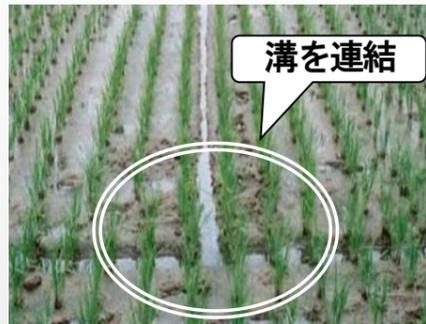
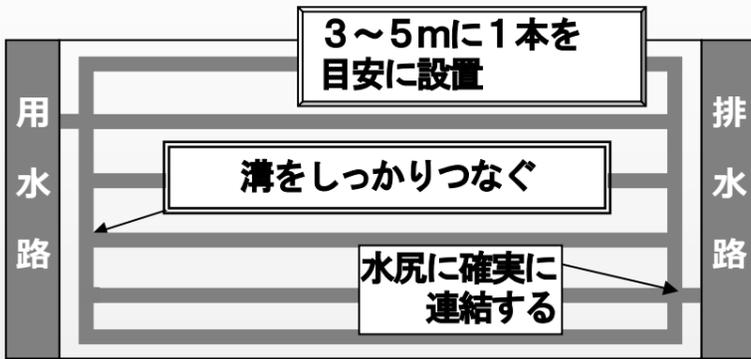


＊6月上旬までに溝掘りを、田植後4週間までに中干しを開始し、充実した茎や根を確保しましょう。出穂期から20日間の湛水管理に備え、田面を固めましょう。

1. 溝掘り

～6月上旬までに溝掘りを行い、中干しの準備を！～

- ・田植3週目頃から軽い田干しを行い、泥を落ち着かせて溝を掘る。
- ・溝は3～5m（10～15条）に1本を目安に設置し、水の切れにくい圃場は、設置本数を増やす。
- ・溝と溝を確実に連結し、水口や水尻につなげる。



2. 中干し

～田植後4週間までに中干しを始め、確実に田面を固める～

6月に入ると急激に分げつが増加するため、田植後4週間までに遅れず中干しを開始する。また、出穂期から20日間の湛水管理に備え、確実に田面を固める。

① 中干し開始時期の目安

田植日	中干し開始時期
5月10日	6月7日までに開始
5月15日	6月12日までに開始
5月20日	6月16日までに開始
5月25日	6月20日までに開始



中干しの効果

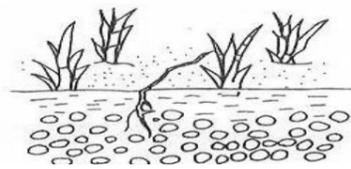
- ・無効分げつの抑制
- ・土中への酸素供給と根の活力の向上
- ・地耐力の向上

充実した茎や根を確保

② 中干しの程度

・水はけの良い圃場

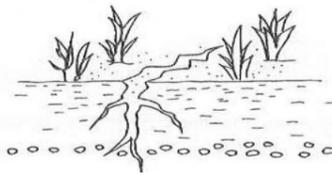
→長靴が沈まない程度に干す
期間は3～5日間程度



田面に
小さな亀裂
が入るまで

・水はけの悪い圃場や粘土質の圃場

→やや強めの中干し
期間は7日間程度



田面に
大きな亀裂
が入るまで

排水の悪い圃場では、
事前に軽い田干しを行う

中干し終了後は
間断かん水

3. 中間追肥

～倒伏防止と登熟向上のため、積極的な施用を～

◎エスアイ加里らくだ、PK けい酸を施用しましょう。

動噴施用が難しい場合はエスアイ加里 カリ投げくんを施用しましょう。

肥料名	施用時期	施用量
エスアイ加里らくだ	6月中旬～下旬	15kg/10a
PK けい酸 (基肥一発体系のおすすめ)		20kg/10a
エスアイ加里カリ投げくん		4kg/10a (200g×20個)

けい酸の効果

- ① 根の活力を高める
- ② 茎葉を丈夫にし、倒伏を防ぐ
- ③ 受光態勢を良くし、登熟を高める
- ④ フェーン時に水分の蒸散を防ぐ

エスアイ加里カリ投げくん

◎パック肥料

・施用の際は、5cm以上湛水してから圃場に投げ込みましょう。

4. 除草剤の散布

～中期除草剤は、中干し前に散布～

○中期除草剤(「初期除草剤+中期除草剤」体系の場合)

除草剤名	雑草の種類	使用時期	10a 当たり散布量	使用上の注意点
レブラス 1キロ粒剤	ノビエ 広葉雑草	移植後14日～ノビエ4.0葉期まで (収穫60日前まで)	1kg	・湛水状態で散布
レブラス ジャンボ	ノビエ 広葉雑草	移植後14日～ノビエ4.0葉期まで (収穫60日前まで)	400g (40g×10個)	・湛水状態で散布
ワイドショット 1キロ粒剤	ノビエ 広葉雑草	移植後15日～ノビエ4.0葉期まで (収穫45日前まで)	1kg	・湛水状態で散布
ブイゴールSM 1キロ粒剤	ノビエ 広葉雑草	移植後15日～ノビエ3.5葉期まで (収穫60日前まで)	1kg	・湛水状態で散布 ・15℃以下または30℃以上になると 予想される場合は使用しない

○雑草が多く残った場合(後期除草剤) ※中干し後も散布できます

除草剤名	雑草の種類	使用時期	10a 当たり散布量	使用上の注意点
トドメMF 1キロ粒剤	ノビエ	移植後14日～ノビエ5葉期まで (収穫50日前まで)	1kg	・湛水状態で散布
トドメMF 乳剤	ノビエ	移植後14日～ノビエ7葉期まで (収穫50日前まで)	200ml (希釈水量 100L)	・湛水または落水状態で散布
ヒエクリーン 豆つぶ250	ノビエ	移植後15日～ノビエ4葉期まで (収穫45日前まで)	250g	・湛水状態で散布
トドメバス MF液剤	ノビエ 広葉雑草	移植後15日～ノビエ6葉期まで (収穫50日前まで)	1,000ml (希釈水量 100L)	・浅水～落水状態で散布し、 3～4日間は入水、落水をしない
バサグラン 粒剤	広葉雑草 (ホタルイ、オモダカ等)	移植後15～55日 (収穫60日前まで)	3～4kg	・浅水～落水状態で散布し、 3～4日間は入水、落水をしない
ノミニー 液剤	クサネム イボクサ	移植後30日～クサネム草丈40cm、 イボクサ茎長30cmまで (収穫60日前まで)	50～100ml (希釈水量100L)	・浅水～落水状態で散布し、 3～4日間は入水、落水をしない

※農薬の使用に際しては登録内容を確認し、草種に応じた除草剤を適期に散布しましょう。
詳しくは、各地区の営農経済センターへお問い合わせください。

カメムシ対策 第3回

～カメムシの発生源を除草し、増殖・拡散を防ぐ～

- カメムシが好むイネ科雑草を春のうちに除草することでカメムシの密度を抑える。
- バスタ液剤、ザクサ液剤などの除草剤を使用する場合、周辺の農用地や作物に飛散しないよう、風の無いときに散布方向・範囲に注意し散布する。
- 除草剤散布をしない場合は、イネ科雑草が穂をつけないよう、こまめに草刈りを行う。

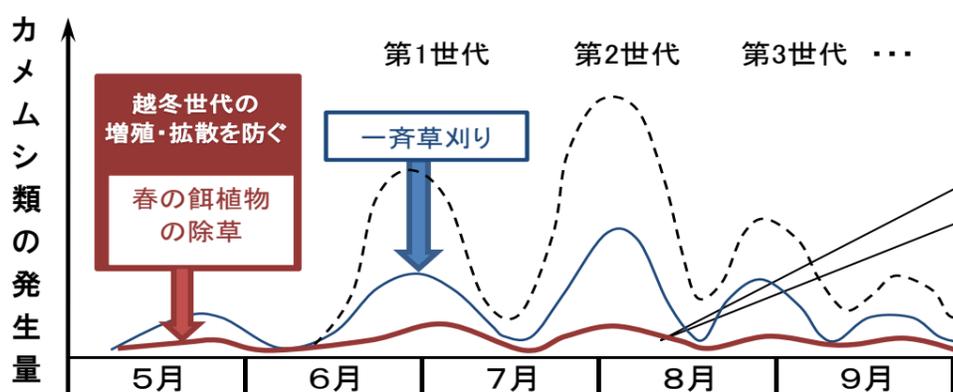


図. カメムシ類の発生活消長(模式図)



アヒゲホトトカシカメ



カシカメ

栽培履歴の記帳・とやま GAP を実践しましょう！

「守ろう 農業ラベル 確かめよう 周囲の状況」 富山県農業危害防止運動実施中 (4/13～9/14)